

長畝ふるさと通信



【2020年1月号】

■ 1月は記録的な暖冬



冬が来ない・・・1月だというのに平野部には雪が1ミリも積もっていません。地球温暖化により海面水温が平均より高いことが影響し、偏西風の流れが乱れ寒気が日本まで南下しないそうで・・・。スキー場が営業できないなど過去最高の記録的な暖冬とされています。

心配されるのは「田んぼの水不足」です。佐渡の田んぼの用水はダムに頼っているところが多く、平年であれば山に積もった雪が春になると溶けだし、地下水となってダムに貯水されていくのですが、雪が積もらず雨だとそのまま下流へと流れ出てしまいます。春になると一斉に田んぼに水を張って耕耘作業が始まり、5月から田植えとなるわけですが、ダムの貯水量が不足すると作業に大きな支障をきたします。水が無ければ「代かき」ができない。水が無ければ「田植」もできない。田植えができてその後の初期生育にも影響してきます。とにかく水が無ければ水稲栽培は成立しないのですから心配の種は尽きません。夏の高温障害も心配ですが、それ以前の大問題発生の異常事態です。

年末からアメリカとイランが戦争するんじゃないとか、イギリスがEU離脱をするだとか世界的な問題も聞き及んではいるものの、とにかく雪降ってくれて感じます。

この時期にこんな青空が見られる？



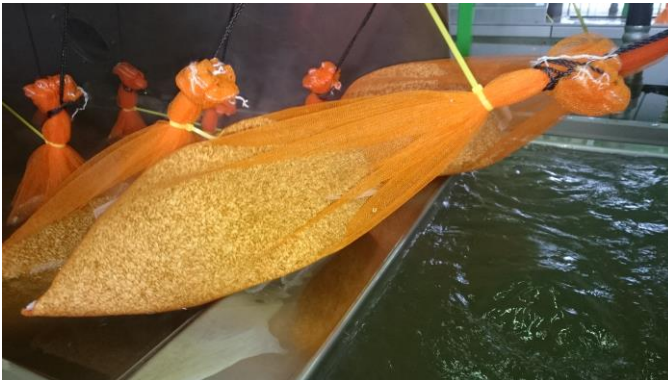
■ マスクがなくなった

新型ウィルスの感染が世界的な大問題になって、連日報道されています。驚いたことに佐渡のホームセンターやドラッグストアでもマスクは売り切れ状態です。都会の家族や知り合いにわざわざまとめ買いして送ってあげる人があとを絶たないそうで、当分入荷の目途も経っていないとの事。マスクをつける習慣が全くないボクにとって、これも異常事態です。マスクの大半は中国からの輸入だそうで、当分の間は混乱するのでしょうか。昔から「アメリカがくしゃみをするとう国が風邪をひく」と言われてきましたが、「中国が肺炎にかかると世界中にウィルスが感染する」・・・世界の工場と言われる中国の混乱がもたらす影響は計り知れないものがありますね。だからと言って個人的にあまり仲良くしたい国とは思いませんが・・・



こんな小さな生き物には感染しないのだろうか

■ 種もみの温湯消毒が始まりました



JAから種もみの温湯消毒作業を受託して10年が経ちました。今では貴重な冬の収入源となっています。

令和2年度の佐渡米の需給調整による作付率は67.08%（転作率32.92%）となりました。前年より2.8ポイント増加です。近年の夏の異常気象の影響で収穫量が減少しているた

め、作付面積を増やして需要に対応しようとするものです。生産者にとってはありがたいことですが、安いお米ばかり重宝がられる傾向が強まってきているので、全体の相場が下落しないかが心配です。とにかく心配が心配を呼び、また心配が増える「負のスパイラル現象」に陥っている訳です。

■ 10年目に突入

長畝ふるさと通信も2010年10月号から10年が経ちました。始めた当初は10年も続けるとは思いませんでしたが、何となくやめられなかったのはみなさんから「毎月読んでよ」と言われたから・・・やめるや止められず・・・今月号から組合のロゴマークを入れてみました。

今後10年先、組合がどうなっていくのか予測できませんが、これからもできるだけわかりやすくふるさとをご案内していくつもりです。10年分のバックナンバーは組合のホームページに掲載されていますので、お暇なときにご覧ください。